

みずから守るプログラム～大雨が降ったら～

大雨行動訓練(避難判断編) 実施手引き

運営者(町内会役員) 編



Ver.1.0



目 次

I. 大雨行動訓練（避難判断編）の目的	1
II. 事前準備	4
III. 実施内容	5
①カード作成の進め方（60分）	5
②避難判断トレーニング（30分）	6
③クロスロード（20分）	7
参考：全体のスケジュール案	8
参考：大雨行動訓練のタイムライン	9

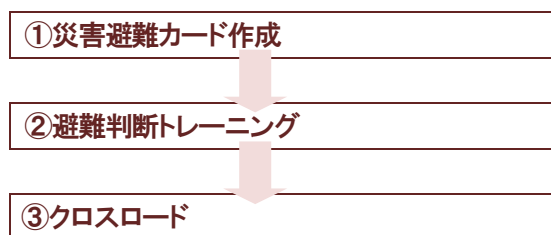
I. 大雨行動訓練(避難判断編)の目的

これまでの「大雨行動訓練(入門編)(Ver1.1からは(伝達訓練編)」は、市町村から自治会長、町内会長を經由して全世帯に一齐連絡し、全員で一齐行動する想定での内容であり、行政から発令される情報を知ってもらうことや、手づくりハザードマップを活用した訓練、町内会としての結びつきを強めることに役立てることを目的としていました。

しかしながら、水害は地震とは異なり、標高や河川との距離等で被害が大きく異なる特徴があり、そうしたことから以下のような課題が見られていました。

- 町内会会長が不在のときに連絡が来ない可能性がある
- 連絡網はできていたとしても、全ての世帯に連絡ができるか不明である
- 地域の中でも家屋ごとに水害危険度は異なるが、一人ひとり取るべき行動がわからない
- 住民が「情報を待つ」姿勢になってしまい、「みずから守る」姿勢の醸成が必要である 等

そのため大雨行動訓練(避難判断編)では、大雨行動訓練(伝達訓練編)から一歩進んで、以下の3つの取組を実施します。



■訓練実施に向けた参加者の心持ち 『水害時の対応に正解はない』

水害は、雨量や水位に応じて刻々とリスクが変化し、そのリスクもお住まいの条件(地形、建物、河川との距離等)によって、地域一様ではありません。

「大雨行動訓練(避難判断編)」では、水害の進展を体験しながら、どの局面で避難判断を行い、どのようなタイミングで避難行動を移すのかを、各個人が各々考える、体験シミュレーション型の訓練です。

大雨行動訓練（避難判断編）を導入するにあたり参考とした事項について

■災害避難カード

内閣府の「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」（平成28年8月）では、「住民が短時間のうちに適切な避難行動をとるためには（中略）住民自身が、想定される災害毎に、それぞれ避難すべき施設や避難に際して確認すべき防災情報など、避難に当たりあらかじめ把握しておくべき情報を記載する」ことが有効としており、そのツールとして「災害・避難カード」が提案されています。

特に大雨・洪水に対して、想定される被害と情報収集方法の認識の促進を目的としています。

■避難判断トレーニング

想定される水害シナリオ（タイムライン）に応じて行政・メディア等から提供される情報を体験いただき、避難判断をトレーニングするものです。実際の災害局面で、どんな情報が来るのか、いつ判断し・いつ行動するのかを体験できます。

台風は発生から被害発生まで予報や前兆時間があり、大きな河川では徐々に水位が上昇します。本プログラムでは、台風の接近に伴う豪雨による大河川の氾濫を想定した水害シナリオとしています。

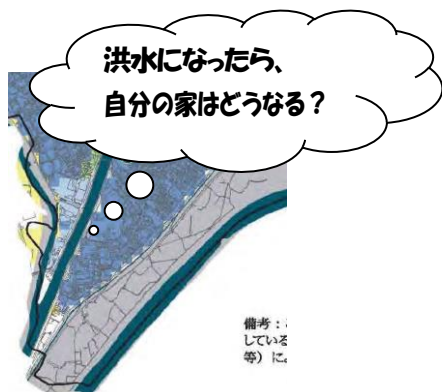
■クロスロード（大雨行動訓練編）

阪神・淡路大震災を受けて、大地震の被害軽減を目的に文部科学省が進める「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として開発されたもので、2004年7月に最初となる「神戸編・一般編」がチームクロスロード（京都大・矢守教授、慶應大・吉川教授など）により作成されました。

災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、また、過去の事例が常に正解でないこともあります。ゲームを通じ、それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること、また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づくことを目的としています。

※「クロスロード」はチームクロスロードの商標登録です。愛知県では、河川の水位や雨量等の防災情報の普及啓発を目的として「クロスロード（大雨行動訓練編）」を製作し、チームクロスロードと覚書を交わしました。クロスロードの目的外使用や設問の改変をしないよう、お願いいたします。

「災害避難カード」とは？



- 「想定される最大浸水深」を理解します
- 時々刻々と変化する川の危険度を知るために、近くの川の「水位」の見方を学びます。

■近くの川の決壊が懸念されるときに、見るべき観測所と留意

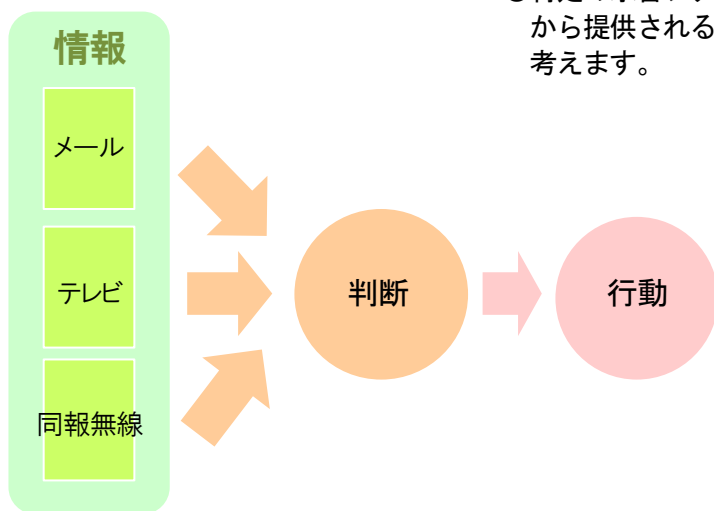
河川名	川	川
水位観測所名		
決壊による自宅の浸水深	m	m
はんぱん氾濫危険水位	m	m
避難判断水位	m	m
はんぱん氾濫注意水位	m	m
普段の水位	m	m



（水位の取得方法）

テレビボタン	NHK、メーテレの2局から利用可能です
WEB	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索
メールサービス	愛知県や市町村独自のメールサービスを利用ください
ライブカメラ	「川の防災情報」にて「_____付近」のカメラ画像をみることができます 「川の防災情報」にて「_____付近」のカメラ画像をみることができます

「避難判断トレーニング」とは？



- 特定の水害シナリオ（タイムライン）に応じて、行政等から提供される情報を体験し、避難すべきタイミングを考えます。

- どんな情報が来るの？
- いつ判断するの？
- いつ行動するの？

「クロスロード」とは？

問. 大雨で間もなく氾濫危険水位です。そのとき、あなたは避難しますか？

Yes避難する

No避難しない

側溝に足を取られる可能性

ジレンマ

浸水して逃場がなくなる可能性

- 「岐路」「分かれ道」のことです。水害対応には「正解はない」といわれ、たくさんの「分かれ道」があります。

- 様々な「分かれ道」を通じて、適切な状況判断力を身に付け、「自分の命は自分で守る」力を養います。

「クロスロード」はチームクロスロードの商標登録です。クロスロード(大雨行動訓練編)の目的外利用や、クロスロード(大雨行動訓練編)の内容(設問を含む)の変更は行わないよう、よろしくお願い致します。内容の変更を検討される場合は愛知県建設部河川課企画グループまで、ご相談ください。

II. 事前準備

訓練は複雑なオペレーションがあるため、事前の準備が必要です。

町内会役員、市町村職員、支援者の3者で、以下の内容を中心に、当日の実施内容を話し合っておきましょう。

会場の確保

小規模な講堂・体育館程度の広さの部屋が良いでしょう。


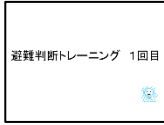
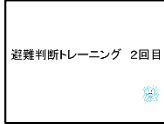
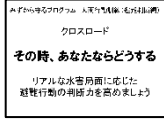
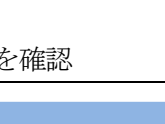
- ・スクリーンを前面に配置し、訓練時は4グループ程度に分かれ、更にその後、移動もあります。
- ・参加者が移動できる程度の一定の広いスペースが必要になります。

リハーサルを行ってもよいでしょう



当日に必要な道具

以下の道具が必要となりますので、役割を決めて準備ください。

担当	場面	持ち物	数量
地区 役員	全体	スクリーン、プロジェクター	1台
		パソコン (Microsoft PowerPoint がインストール済み)	1台
	災害避難 カード作成	大雨洪水災害避難カード (厚紙に印刷)	人数分
		DVD「命を守る河川水位情報」 ※更に詳しい勉強資料 (カード作成 勉強資料.pptx) も用意 しています	パソコンの中に保存
	避難判断 トレーニング	イベントカード (A3サイズ以上が望ましい)	1部
		避難先を示す看板 (A3サイズ以上が望ましい)	1部
		セロハンテープなど (看板を貼るため)	必要量
		データ (「避難判断トレーニング」の手順.pptx)	 パソコンの中に保存
		データ (避難判断トレーニング その①.pptx)	 パソコンの中に保存
	データ (避難判断トレーニング その②.pptx) ※「音素材」フォルダも同じフォルダに保存	 パソコンの中に保存	
クロスロード	データ (避難の留意点の話し合い.pptx)	 パソコンの中に保存	
	データ (クロスロード(大雨行動訓練編).pptx)	 パソコンの中に保存	
市町村	災害避難 カード作成	洪水ハザードマップ ※特に、地域で見るべき水位計とその水位情報を確認	できれば人数分

当日に必要な人員

- 全体司会 (町内会・自治会代表者など) 1名
- 市町村職員 1名
- 講師 (支援者) 1名
- サポート (支援者) 3名

ハザードマップが配布済みの場合は、参加者に持参していただいてもよいでしょう



Ⅲ. 実施内容



①カード作成の進め方 (60分)

(1)DVD「命を守る河川水位情報」による学習

河川水位情報の見方や取得方法などを知ることが、命を守ることに繋がります。まずはそれをまとめたDVDを参加者全員で鑑賞し、訓練に必要な基礎知識を共有します。

自ら学ぶこと (地区役員が説明)

(2)見るべき水位計の確認と「災害避難カード」の書き方

各個人の「災害避難カード」をまとめるために、まずはお住まいの地域がどの河川の影響を受け、どの水位観測所を見るべきか確認します。また、合わせて登録型防災情報メール愛知県 みずから守る防災情報メールサービス (みずからメール) などについてお知らせします。

その上で「災害避難カード」の書き方を学びます。

市町村毎で独自の防災情報や避難情報などを配信するサービスやアプリがある場合は合わせて紹介するとよいでしょう



参加者一人ひとりで記入する

(3)カード記入

勉強会で学んだことを基に、一人ひとりで災害避難カードに記入をしてもらいます。

河川では難しい用語も多いため、分からない事は市町村職員や支援者に積極的に質問するように促しましょう。

水害をみずからの問題として、1人ひとりが考えることを目的としているので、原則として参加者をご自身でカードに記入します



②避難判断トレーニング

(30分)

(1)内容説明・グループ分け

パワーポイント資料「避難判断トレーニング」の手順.pptx」を使って、参加者に説明します。

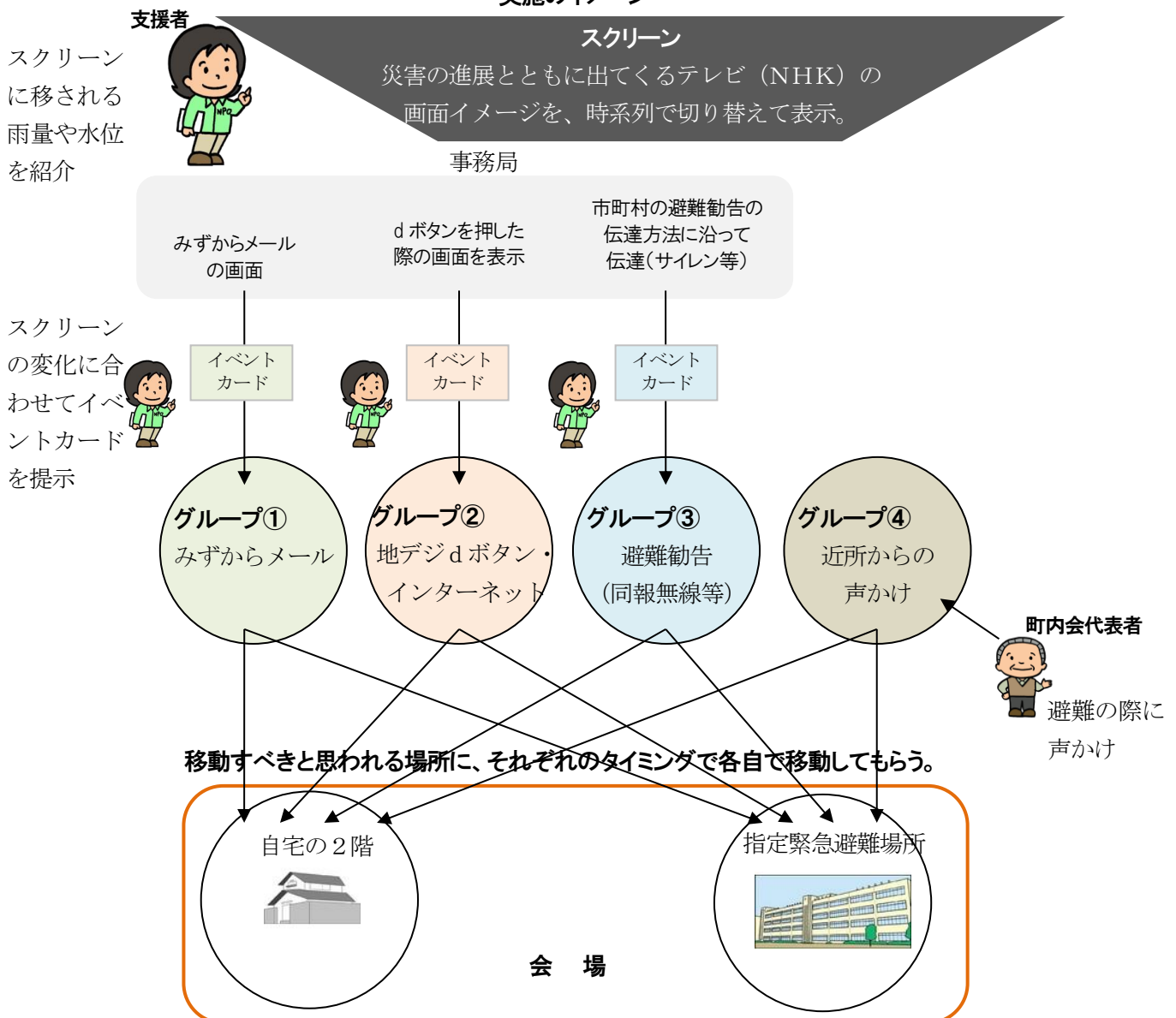
その中で、参加者に対して、以下の4つの「情報」の中から、「自分は受け取れる」と思うグループに分かれてもらいます。

グループ① みずからメール	グループ② 地上デジタル放送dボタン・インターネット	グループ③ 避難勧告（同報無線等）	グループ④ 近所からの声かけ （町内会・自治会の連絡網）
------------------	-------------------------------	----------------------	------------------------------------

(2)避難判断トレーニングの実施

関東・東北豪雨の鬼怒川決壊をモデルとして作成した水害シナリオ（タイムライン）にて、この地域で発生した際に想定される状況のテレビ画面をスクリーンに映します。参加者は、提供されたそれら情報を見て、指定緊急避難場所への避難か自宅の2階（緊急一時避難）か、選択をして移動してもらいます。

実施のイメージ



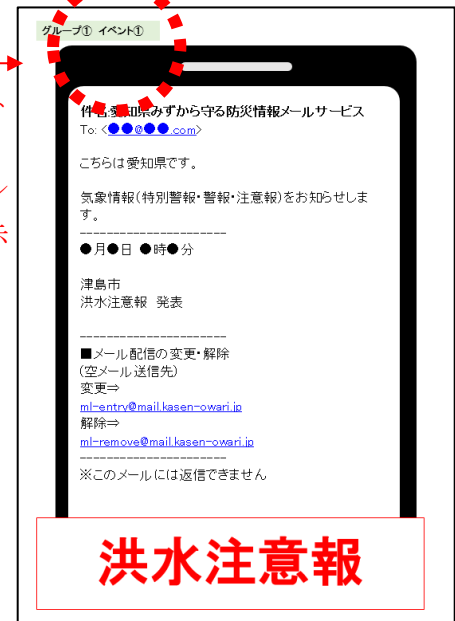
【事務局の対応】

スクリーンに映し出された画面に合わせて・・・



左上のイベント番号を確認し、該当するイベントカードを提示します。

イベントカードを提示します



【訓練は2回実施】

訓練をより効果的にするために、2回実施すると良いでしょう。

1回目は、スライドの切り替えが手動の「大雨行動訓練 その①.pptx」を使い、2回目は自動で音声付きの「大雨行動訓練 その②.pptx」を使用することで、より臨場感を味わえます。

(3)話し合い

グループ①～④で、各グループから1名ずつ代表者を選出し、「良かったこと」「心配なこと」「気づいたこと」等を全体に発表してもらおうと良いでしょう。

③クロスロード (20分)

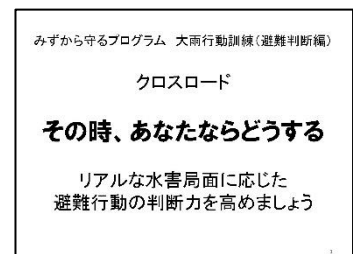
「②避難判断トレーニング」は、ある特定の水害シナリオの基に実施しましたが、実際の水害時の対応には正解はありません。クロスロードの実施により、水害時の多様なリスクを学びましょう。

実施する地域に合わせて1～2間の設問を選んで実施しましょう。

(1)スライドによる実施

「クロスロード(大雨行動訓練編).pptx」(巻末参照)を活用すれば、スライド通りに話すだけでクロスロードが実施できます。途中で2択の質問がありますので、参加者には挙手等で明示してもらいましょう。

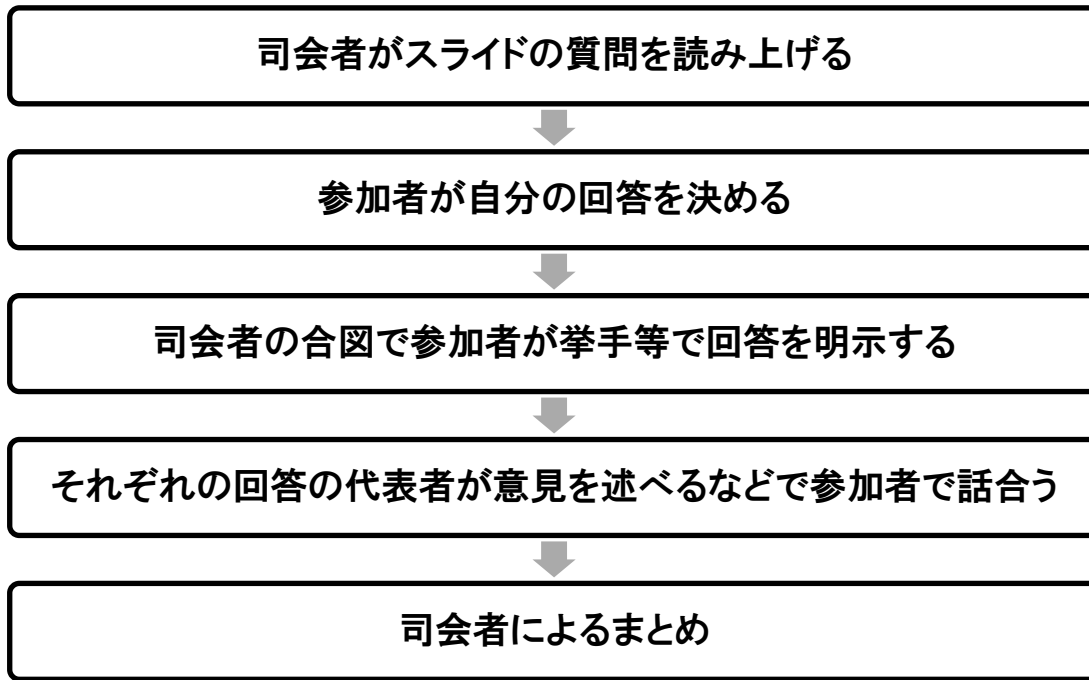
答えはありません(どちらも正解で、どちらも誤り)なので、それぞれ代表者に意見を述べてもらう等で、水害のリスクを全員で話し合いましょう。




“どちらが適切なのか”“どうあるべきか” 答えを決めるのではなく、参加者それぞれで状況や場所が異なることや、多様な意見を共有できる雰囲気づくりが重要です

「クロスロード」はチームクロスロードの商標登録です。クロスロード(大雨行動訓練編)の目的外利用や、クロスロード(大雨行動訓練編)の内容(設問を含む)の変更は行わないよう、よろしくお願ひします。内容の変更を検討される場合は愛知県建設部河川課企画グループまで、ご相談ください。

【クロスロードの流れ】



実施する地区の特徴や、参加者の年齢層や人数によって実施する設問は工夫が必要です。時間に余裕がある場合は、2問実施してもよいでしょう 

参考:全体のスケジュール案

	時間	内容	担当
開会	0:00	あいさつ	町内会役員 市町村職員（支援者）
災害避難カード 作成	0:10	DVD「命を守る河川水位情報」による学習	町内会役員（支援者）
	0:25	見るべき水位計の確認と「災害避難カード」の書き方	町内会役員（支援者）
	0:40	カード記入	全員
	0:55	グループ分け	全員
避難判断トレーニング	1:05	概要説明	町内会役員（支援者）
	1:15	トレーニングの開始	全員
	1:45	まとめ	全員
	1:55	休憩	全員
クロスロード	2:00	話し合いの概要説明	町内会役員（支援者）
	2:10	話し合い①	全員
閉会	2:30	あいさつ	町内会役員

司会進行：地区代表者、役員など

参考:大雨行動訓練のタイムライン ※このタイムラインは、最も一般的な流れで作成しています。「日光川」の箇所を適宜修正して使用してください。

イベント番号	発生した事象	全グループ共通 テレビ・ラジオ	グループ別イベントカード			
			グループ① みずからメール	グループ② dボタン・インターネット	グループ③ 避難勧告	グループ④ 声かけ避難
イベント①	洪水注意報	洪水注意報	メール配信 (洪水注意報)			
イベント②	大雨洪水警報発令	大雨洪水警報	メール配信 (大雨洪水警報)			
イベント③	はんらん 氾濫注意水位超過	日光川氾濫危険情報 (洪水注意報)	メール配信 (氾濫注意水位)	氾濫注意水位超過		
イベント④		避難準備情報			避難準備情報	(避難を始めた人から声かけ)
イベント⑤	避難判断水位超過	日光川氾濫警戒情報 (洪水警報)	メール配信 (避難判断水位)	避難判断水位超過		
イベント⑥		避難勧告			避難勧告	(避難を始めた人から声かけ)
イベント⑦	氾濫危険水位超過	日光川氾濫危険情報 (洪水警報)	メール配信 (氾濫危険水位)	氾濫危険水位超過		
イベント⑧		避難指示			避難指示	(避難を始めた人から声かけ)
イベント⑨	氾濫発生情報(越水)	日光川氾濫発生情報 (洪水警報)	メール配信 (氾濫発生情報)	氾濫発生情報		
イベント⑩	堤防決壊					
イベント⑪		堤防決壊を知らせるニュース				

(記載例)

大雨洪水 災害避難カード

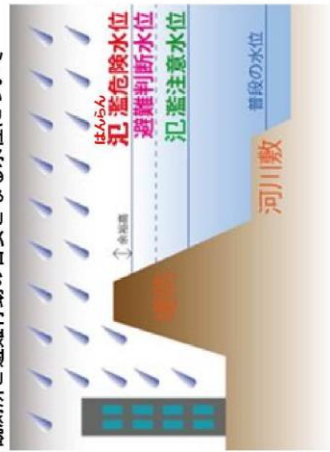
作成日 平成29年 9月 26日

住所	〇〇市〇〇町〇番地	作成者	みずから
階数・構造	自宅の階数(2)階建 木造・コンクリート造・()		
避難所の名称と住所	名称(〇〇小学校)住所(〇〇市〇〇町〇丁目〇番地)		
自宅周辺地形から見た浸水危険度	高い・やや高い・ <u>やや低い</u> ・やや低い・低い・なし		
避難経路から見た洪水の危険度	高い・ <u>やや高い</u> ・ <u>やや低い</u> ・やや低い・低い・なし (避難経路上で水たまりになりやすい箇所)		
川の決壊による洪水の危険度	高い・やや高い・ <u>やや低い</u> ・低い・なし		
洪水時家屋倒壊危険地域*	内・外		
大雨のときに確認する気象情報	気象情報は、テレビのdボタン		で確認する

*浸水時に家屋倒壊等のおそれがある区域(想定最大規模(L2)の浸水想定区域図等で確認)

■近くの川の決壊が懸念されるときに、見るべき観測所と避難行動の目安となる水位について

河川名	新川	五采川
水位観測所名	水場川外水位	春日
決壊による 自宅の浸水深	1.0~2.0 m	1.0~2.0 m
はんらん 氾濫危険水位	5.2 m	5.4 m
避難判断水位	4.4 m	4.9 m
はんらん 氾濫注意水位	3.0 m	3.9 m
普段の水位	0.12 m	2.2 m



(水位の取得方法)

テレビdボタン	NHK、メーテレの2局から利用可能です
WEB	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索
メールサービス	愛知県や市町村独自のメールサービスを利用ください
ライブカメラ	愛知県 「川の防災情報」にて「春日 付近」のカメラ画像をみることができ 愛知県 「川の防災情報」にて「春日 付近」のカメラ画像をみることができ

■大雨の時に見るべき雨量観測所について

- 家の近くの雨量観測所 ⇒ () 久田野
- ※家の周辺だけでなく上流部の雨量にも注意してください。
- 気象庁の「大雨注意報」は時間雨量20~30mmが基準となっております。浸水や土砂災害の恐れがあります。

■大雨の時に見るべき気象情報について(リアルタイムの雨量レーダー)

- 川の上流部では水位の上昇が非常に速いことがあるので、雨量の状況を、テレビのデジタル放送(dボタン)、Webページ(気象庁、国土交通省、愛知県など)、スマートフォンのアプリなどで確認しましょう。

■避難行動の留意点

- 周りで浸水が始まっている場合や逃げ遅れた場合は、無理に避難せず2階等の安全な場所へ移動してください。
- 退避先にお住まいの方は、退避が離れた場合に家具が倒壊する可能性もありますので早めの避難が必要です。(メモ) 避難するときに、隣に住んでいる〇〇さんにも声をかける。

大雨洪水 災害避難カード

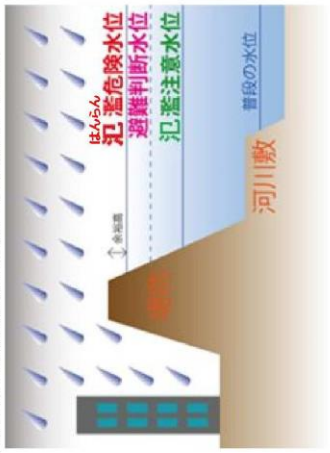
作成日 年 月 日

住所	〇〇市〇〇町〇番地	作成者	
階数・構造	自宅の階数()階建 木造・コンクリート造・()		
避難所の名称と住所	名称()住所()		
自宅周辺地形から見た浸水危険度	高い・やや高い・やや低い・低い・なし		
避難経路から見た洪水の危険度	高い・やや高い・やや低い・低い・なし (避難経路上で水たまりになりやすい箇所)		
川の決壊による洪水の危険度	高い・やや高い・やや低い・低い・なし		
洪水時家屋倒壊危険地域*	内・外		
大雨のときに確認する気象情報	気象情報は、		で確認する

*浸水時に家屋倒壊等のおそれがある区域(想定最大規模(L2)の浸水想定区域図等で確認)

■近くの川の決壊が懸念されるときに、見るべき観測所と避難行動の目安となる水位について

河川名	川	川
水位観測所名		
決壊による 自宅の浸水深	m	m
はんらん 氾濫危険水位	m	m
避難判断水位	m	m
はんらん 氾濫注意水位	m	m
普段の水位	m	m



(水位の取得方法)

テレビdボタン	NHK、メーテレの2局から利用可能です
WEB	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索
メールサービス	愛知県や市町村独自のメールサービスを利用ください
ライブカメラ	「川の防災情報」にて「 付近」のカメラ画像をみることができ 「川の防災情報」にて「 付近」のカメラ画像をみることができ

■大雨の時に見るべき雨量観測所について

- 家の近くの雨量観測所 ⇒ ()
- ※家の周辺だけでなく上流部の雨量にも注意してください。
- 気象庁の「大雨注意報」は時間雨量20~30mmが基準となっております。浸水や土砂災害の恐れがあります。

■大雨の時に見るべき気象情報について(リアルタイムの雨量レーダー)

- 川の上流部では水位の上昇が非常に速いことがあるので、雨量の状況を、テレビのデジタル放送(dボタン)、Webページ(気象庁、国土交通省、愛知県など)、スマートフォンのアプリなどで確認しましょう。

■避難行動の留意点

- 周りで浸水が始まっている場合や逃げ遅れた場合は、無理に避難せず2階等の安全な場所へ移動してください。
- 退避先にお住まいの方は、退避が離れた場合に家具が倒壊する可能性もありますので早めの避難が必要です。(メモ)

クロスロード

その時、あなたならどうする

リアルな水害局面に応じた
避難行動の判断力を高めましょう

1

ケース1 午後8:00

状況

下流の大きな川から離れて住んでいますが、**近くには水位計のない支流の小さな川があります。**

台風が近づき前線の影響で、雨がひどくなっており、少なくとも数時間は局所的に降り続く様子です。

水位計のある下流の大きな川の水位は上昇し、**氾濫危険水位にまもなく到達しますが、支流の小さな川の様子はよくわかりません。**

その時、あなたは避難所に移動しますか？

2

ケース1 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

避難しない

3

ケース1 答えはありませんが

○YESの方(避難する方へ)へ

下流の氾濫危険水位は、避難判断の目安になり、避難のタイミングになるものですが、支流の小さな川がすでに氾濫している場合もあります。避難経路に支流の川がある場合は、**避難時の被災にも注意**が必要です。

○NOの方(避難しない方)へ

支流の小さな川が氾濫し、**逃げ場をなくした後に、大きな川(本川)の堤防が決壊(破堤)し、広域的に浸水**する可能性もあります。

4

ケース2 午前9:00

状況

あなたは、大きな川の近くの2階建の住宅に、小さな子供と住んでいます。

その川の水位は、氾濫危険水位に到達しており、上流部では昨夜遅くに越水した場所があるという情報を聞き、行政からは避難勧告がでていることをテレビで確認しました。

知人に電話したところ、既に避難しており、避難途中に浸水している道路があると聞きました。

その時、あなたは避難所へ移動しますか？

5

ケース2 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

6

ケース2 答えはありませんが

○ YESの方(避難所へ行く方)へ

避難勧告がでた場合、**避難ルートにどのようなリスク**があるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

○ NOの方(2階へ避難する方)へ

大きな川の近くは、**堤防の決壊(破堤)等による家屋倒壊の危険もあるため**、内水氾濫の前に避難することが最善ですが…。

7

ケース3 午後3:00

状況

避難所から2km離れた2階建の住宅に、足の悪い介護の必要な母親と住んでいます。

河川水位は上がり、**氾濫注意水位に到達し**、行政からも避難準備情報がでていました。

避難所へ行く準備をしている最中、**避難勧告に変わりました**。

その時、あなたは避難所に移動しますか？

8

ケース3 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

9

ケース3 答えはありませんが

○ YESの方(避難所へ行く方)へ

避難ルートにどのようなリスクがあるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

○ NOの方(2階へ避難する方)へ

高齢者避難は十分な避難の時間が必要です。高齢者の家族は、避難判断水位に達する前段階で避難所に向かうことが賢明ですが…

10

ケース4 市役所(町村役場)への電話

状況

川の近くに住んでいます。記録的短期間大雨情報が発表されました。最寄りの川は、氾濫注意水位に到達しました。雨は、強くなっていますが、まだ避難できる状況です。

あなたは、避難所に避難しようか悩み、仕事
中の家族に相談したところ、市役所(町村役場)
に聞いてみたらどうかとアドバイスを受けました。

**その時、あなたは市役所(町村役場)
に電話しますか？**

11

ケース4 その時、私は

YES

**市役所(町村役場)
に電話する**

NO

**電話せず、
避難所へ行く**

12

ケース4 答えはありませんが

○ YESの方(市役所(町村役場)に電話する方)へ

市役所(町村役場)では、避難所開設や避難勧告の準備で、担当者が個別相談に十分対応できる時間がありません。避難所開設は、テレビdボタンやインターネット等でみることができますので、みずから収集できる情報を事前に確認しておきましょう。

○ NOの方(避難所へ行く方)へ

避難ルートにどのようなリスクがあるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

13

ケース5 溪谷沿い集落

状況

中山間地域の溪谷が形成されている中小河川の近くに住んでいます。

河川の水位は上がっていますが、水位計は、下流部の本流にしか設置されておらず、今後の水位が気になっています。

雨雲レーダーをみると、上流部で50mm/時間以上の降雨がしばらく続きそうです。

その時、あなたは避難所に移動しますか？

14

ケース5 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

15

ケース5 答えはありませんが

○YESの方(避難所へ行く方)へ

避難ルートにどのようなリスクがあるかも考え、総合的に避難行動を考える必要があります。逃げ遅れた場合は、2階への避難も命を守る行動として重要です。

○NOの方(2階へ避難する方)へ

中小河川は、水位の上昇が早く、住宅の場所や水流によっては家屋流出も懸念されます。川に近い方は、日頃から対応を考えておく必要があります。

16

ケース6 土砂災害

状況

裏山がある(新興住宅地の)2階建住宅に暮らしています。

家の近くを流れる河川の水位は、氾濫危険水位に到達していませんが、家の回りの坂道は、滝のような状況になっており、昨日の昼からの雨は夜半になっても衰えていません。

カミナリも鳴り響き、家から出るのが怖い状況です。

その時、あなたは避難所に移動しますか？

17

ケース6 その時、私は

YES

**避難所へ
移動する**

NO

**避難しない
(2階へ避難)**

18

ケース6 土砂災害

● ● YESの方、NOの方へ

土砂災害は、河川の水位とは関係なく、累積雨量等が避難判断の基準になりますが、明確な避難勧告等の基準がなく、避難判断のタイミングが大変難しいのが現実です。

台風のように雨が予測できる時は、早めの避難が重要ですが、状況次第では、安全な場所に身を寄せてください。

作成:平成 30 年 1 月

発行:愛知県建設部河川課

名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 2 号

052-961-2111(代)

kasen@pref.aichi.lg.jp

編集:三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)